

## ■ 議題

---

今回の審議委員会は、8月18日放送の「市役所からこんにちは」（毎週木曜日正午～サテライト放送）の中で、日枝中学校の生徒2名が出演した模様（担当：遠藤尚美ナビゲーター）と、9月12日放送の亀山陽子ナビゲーター担当番組「ヒッツ・サンセット・ヴォックス」、9月14日放送の辻井彩ナビゲーター担当番組「ヒッツ・デイリー・エキスプレス」、9月15日放送のともみナビゲーター担当番組「ヒッツ・デイリー・エキスプレス」、9月15日放送の田中曜子ナビゲーター担当番組「ヒッツ・ヴォイス・オブ・ザ・コンパス」、9月16日放送の佐藤えりナビゲーター担当番組「ヒッツ・デイリー・エキスプレス」、9月16日放送の中村よしこナビゲーター担当番組「ヒッツ・モーニング・エアー」の各オープニングを聴いて審議に入った。

## ■ 審議内容

---

会社側： 審議に入る前に、前回の番組審議委員会での意見に対しての回答、報告、今後の放送予定、聴取していただいた番組の補足などを説明した。

大萱委員長： 只今、試聴したコーナーの内容や、普段聴いている放送についてなど、順次、意見ををお願いしたい。

土屋委員： （土屋委員は国土交通省の職員）番組の感想の前に1つ情報提供をしたい。台風16号が現在接近しているが、独自に気象協会から高山地域限定のピンポイント情報を頂いている。この情報によると、台風自体は太平洋側を通過する見込みで、この地域には台風の影響がそれほど無いようだが、秋雨前線に影響を与えていて、この後、午後3時ぐらいから午後9時ぐらいまで大雨が予想されている為、注意して頂きたい。番組については、中学校の生徒が出演した模様は、中学生がハキハキしゃべっていて好感がもてた。ナビゲーターのオープニングについては、朝・昼・晩といろいろな番組が混ざっていたと思うけど、それぞれの時間帯で工夫して話題を選んで放送しているのでよいと思った。

大萱委員長： 今、ピンポイントの台風情報の話があったが、ヒッツFMとしては、いつでも対応できるようになっているのか？

会社側： はい。台風に限らず、気象情報は当社もウェザーニューズ社と契約を結んでいて、必要な情報を取り出せるようになっている。国土交通省高山国道事務所と同じく当社もピンポイントで気象情報を提供することができる。現在、台風情報やピンポイント情報は随時放送している。また、高山市役所危機管理室からの依頼で、台風の備えについてなど、昨日から放送をしている。勿論、今夜も台風に備えて待機することになっている。

安田委員： 各ナビゲーターのオープニングについて、声の良い方や素晴らしい方ばかりで、大変聴きやすい内容だった。ただ、人によってBGMが大きいせいか、ナビゲーターの声がBGMに負けている感じがした。

大萱委員長： BGMについては、以前の番組審議委員会でも指摘を受けているが、調整は難しいのか？

会社側： 確かに担当ミキサーによって、BGMが大きくなってしまふことがある。しかし、音量を下げる基本のレベルがあるので、お互いに気を付けていれば難しいことはないと思う。再度確認する。

川原委員： 各ナビゲーターのオープニングについて、特に大きな問題はないと思ったが、ナビゲーターによって声質が高い方、低い方がいて、比較すると高い方のほうが、声通っていて聴きやすく感じた。更に、ゆっくり話してくれる方になればなるほど、内容も聴きやすいと思った。みなさん、大変聴きやすいと思った。

大萱委員長： ナビゲーターの中で経験が浅いのは、田中ナビゲーターか？

会社側： はい。

大萱委員長： 他のナビゲーターはベテランばかりになるのか？

会社側： 10年以上やっているベテランのナビゲーターは数名居るが、中堅のナビゲーターも3名居る。

大萱委員長： ナビゲーターの経験年数はバラバラだが、それぞれの特徴があってよいと思う。

奥原委員： 最初の日枝中学校の生徒の放送だが、部活や好きな教科・嫌いな教科など分かりやすい質問が投げかけられていて、さらにその質問に対して中学生がしっかりと答えていて、中学生らしさが出ていて良かったと思った。1つ気付いた点は、中学生は職場体験で来ていたので、体験した感想を聴きたかった。後のほうで放送したのかもしれないが、どんな体験をしたのかななどを質問すれば良いと思った。

各ナビゲーターのオープニングについては、みなさん聴きやすい声で良かったと思うが「ヒッツ・デイリー・エクスプレス」を担当している2人のナビゲーターを比較した時に、辻井ナビゲーターは季節（秋）の話題をずっとしゃべっていたのに対し、ともみナビゲーターは天気の話から改築した高山駅の話題になり、そこから新しい通路の名前の応募の話や、通勤途中で新しくなった高山駅を見た感想など話題が広がっていたので、聴き手としてはともみナビゲーターの話題のほうが興味を持てた。

大萱委員長： 放送では、ヒッツFMに来て職場体験をした生徒に話を聞いていたが、他の職場で体験している生徒にインタビューした放送は以前もやっていたのか？

会社側： 以前、レポートで取り上げた事がある。事前に録音をして、別の枠で放送した。

大萱委員長： 今後の予定で、今月末に別の中学生もヒッツFMに来て職場体験をするようだが、その時にレポートなども行う予定なのか？

会社側： はい。レポートなど行う予定だ。

大萱委員長： 他で職場体験している生徒の話を聴けたらいいと思うので、ぜひお願いしたい。

田中委員： 中学生の職場体験について、先ほどの意見にもあったが、実際に仕事を体験した感想を話してもらおうと良いと思った。ヒッツFMはラジオなので、我々からすると、ヒッツFMがどのような仕事をしているのかわからないので、体験話をしてもらおうと「ヒッツFMはこんな仕事をしているのか」ということが分かる。

各ナビゲーターのオープニングについては、ともみナビゲーターは新しくなる高山駅の話をしてしたが、実際に自分の目で見えてきた話をしていて、他のナビゲーターの話と比較すると、どの人の話を聴きたいかなと思った時に、ともみナビゲーターの話を聴きたいと思った。

会社側：今回聴いていただいたオープニングやフリートークは、基本的にナビゲーターに任せている。その時にあった話題などをしゃべってもらっている。ほぼ毎日、話題を考えなければいけないナビゲーターもいれば、週に2～3日というナビゲーターもいるが、正直「よく話が思い浮かぶな」と感心する。それが仕事だと言えればそれまでなのだが。先ほど話にもあったように、実際に目で見えてきた日は、そのことについて話ができ、また、いろいろな所に行けない日は、資料などを基に話題を提供している。その辺りどのようにやっているのかを、今日出席している中村ナビゲーターに説明して欲しいと思う。

中村ナビ：私は、毎週月曜日から金曜日までの朝7時から9時までの番組を担当しているが、普段は天気の話や、実際に見てきた話などをすることが多い。みなさんに聴いていただいた16日は金曜日で、その後が連休だったこともあって、週末に行われるイベント情報がたくさんあり、オープニングでも紹介した。  
私の場合は、1週間を表にして組み立てて「この日にはこんな話をする」と決めている。その中で、ネタがたくさんある日は、外に出て実際に目を見て話すように心がけている。ネタがあまりない日は正直、悩むこともある。

大萱委員長：私もヒッツFMで、2週間に1回のペースで20分ほどの番組を持っているが、ネタを考えるのが大変だ。それが毎日となると更に大変だと思う。でもやってもらわないと困るので頑張りたい。各ナビゲーターは、外にも飛び出して情報収集しているようなので、今後もお願いしたい。

原委員：私は、ヒッツFMをここ何年も聴いているリスナーの1人だが、全ての番組を聴いてみると、ナビゲーターそれぞれに特徴があっておもしろいと思う。ナビゲーター毎に、話題が違っていたり、話題が同じでも切り口が違ったりして個性が出ているのではないかと思った。特にベテランのナビゲーターは、落ち着いていて凄く聴きやすい。  
今、試聴した各ナビゲーターのオープニングについては、亀山ナビゲーターは早口だが滑舌が良く聴きやすいと思う。亀山ナビゲーターについては、たまにはゆっくり話してもらおうと良いと思った。  
辻井ナビゲーターは、少し声が低音なのか、BGMが大きかったのか分からないが、聴き辛い感じがした。  
ともみナビゲーターは聴きやすかった。  
田中ナビゲーターは、たまに原稿読みの時に言葉が詰まったりする事もあるが、だいぶ慣れてきた印象を受けた。

佐藤ナビゲーターは、高山出身でないせいか、高山の話題が少ない気がする。もう少し高山の事を知って欲しいと思う。

中村ナビゲーターは先ほど話にもあったが、毎日しゃべっていると話題に苦勞するのだなという事を改めて知った。勿論、他のナビゲーターも話題には苦勞していると思う。大変だが頑張っ欲しい。

大萱委員長： 中村ナビゲーターは朝の番組の担当で、朝早いのは大変だと思う。  
ところでヒッツFMは今年で開局何年になるの？

会社側： 19年経った。来年20周年になる。

大萱委員長： 息の長いコミュニティFMということで、これからも続けて欲しいと思う。  
ところでみなさん「こんなことをやってみたらどうなのだろう」という意見があればお願いしたい。  
配布されたこの番組表は、今回の番組審議委員会の為に作成したものなのか？

会社側： 以前からあったもので、普段はリスナーやクライアントに渡しているが最近、在庫が無くなり、またナビゲーター1人が産休に入った為、一部修正して作り直した。ナビゲーターの産休に伴い、番組担当者を一部変更した事を報告する為に、委員のみなさんに渡した。本来だと、もう少し詳しい内容の番組表があると良いのだが、なかなか作成できない。

大萱委員長： せっくなので、今度新しく番組表を作成する時は、インターネットラジオを始めた事も入れてもらおうと良いと思った。

田中委員： （田中委員は観光コンベンション協会の職員）1つ告知があり、番組で取り上げてもらおうとありがたい。「飛驒の木工房めぐり」という、飛驒にいる若手の木工作家たちの工房を巡るイベントがあり、飛驒市を含めて全部で18箇所の工房が参加している。たくさんの若手作家がいるので、コーナーとして紹介して欲しい。全員取り上げるのは難しいかもしれないが、できる限り紹介していただくとありがたい。先ほども言ったが、工房を巡るものなので、実際に現地まで行ってインタビューできると良いと思う。地場産センターに資料があるので見て欲しい。

会社側： 検討したい。

安田委員： 以前、飛騨弁の放送はあったのか？インターネットラジオを始めて、全国でヒッツFMが聴けるようになったのだから、各地で活躍している飛騨出身の方が、ヒッツFMを聴いて懐かしさを感じてくれるなどすれば、また飛騨に戻ってくるきっかけになると思うので、飛騨弁での放送があると良いと思う。

大萱委員長： せっかく全国発信ができるようになったのだから、そのような放送があると良いと思う。

こないだも話をしたけれど、学校を卒業する生徒に「ヒッツFMが全国で聴けるよ」という文言が入ったボールペンやステッカーなど、卒業時に何かの形で配ることは予算的に難しいのか？この前、あるイベントでシャープペンかボールペンが1本100円でできた。その時は参加人数が800人ほどいたので、80,000円ぐらいかかった。確かに数が多くなると予算的に大変だと思うけれど、協賛企業を集めてステッカーなどを作成して欲しいと思う。ぜひ考えて欲しいが、そろそろ考えないと、今年度の卒業式に間に合わない。来年の20周年にあわせて作成しても良いかもしれないが、ぜひお願いしたい。

さっきの話、飛騨弁の放送はおもしろいと思う。誰かやっていたのか？

会社側： 過去に一部ではあるが飛騨弁で放送していたが、自然消滅してしまった。先ほどの話にもあったが、インターネットラジオを始めた事だし、また考えていきたいと思う。

原委員： 過去にやっていたという事は、聴いていない人も多いと思う。過去にやっていたことでも、今、同じ事をやると新鮮に感じたり、懐かしく思う人もいると思う。

会社側： 高山市役所からは一部のコーナーとして、インターネット配信向けの飛騨の情報があっても良いのではないかという提案があった。

大萱委員長： 調べる事は難しいと思うが、インターネットでヒッツFMを聴いている人の時間帯って分かるものなのか？

会社側： 分からないが、メールで届いたリクエストを見ると、昼間から夕方にかけての時間帯が多かった印象がある。なので、ネット配信向けの飛騨の情報を放送するのなら、この時間帯の中で放送しても良いのかなと思った。

大萱委員長： いろいろチャレンジしてもらいながら、我々にもいろいろな情報をいただきたい。

来年20周年を迎えるにあたり、今さらと言われるかもしれないが、ヒッツFMの知名度はどのくらいあるのか？調べないとわからないのか？ところで国分寺商店街は今、ヒッツFMを流しているのか？一時、流れていたと思うが。

原委員： （原委員は国分寺商店街にある店の店主）一時は流していたけれど、内容によってしゃべりが多いと何をしゃべっているのか、商店街の中ではわかり辛い時があるので、今は音楽を流している。

会社側： 今、当局を流している商店街は本町4丁目のみだと思う。

大萱委員長： 施設などでヒッツFMを流している所はあるのか？

会社側： 原委員のお店で流してもらっている。

原委員： それは頼まれたわけではなく、こちらが勝手に流している。昔から地元の情報を知りたくてずっとヒッツFMを流している。審議委員になってからは、更に真剣に聴いている。また、昔から聴いている人も、高山のイベント情報、高山の気象情報など、細かい高山の情報を得るために、ヒッツFMを聴いていると思う。勿論、他のラジオ局を聴く人もいるが、少しでもヒッツFMを聴いてもらうようにして欲しいと思う。その為には、PRをどんどんして欲しい。

会社側： 今月18日（日曜日）まで、7,000円相当の飛騨牛のプレゼントを行っていた。賞品にもよると思うが、今までにメール・ハガキなどを貰ったことのない方からの応募が目立った。年齢層は50代から70代と高めだが、自分たちが把握していない方からの応募やリクエストが、今回の飛騨牛プレゼントに限っていえば多かったのも、意外と知らない方々が聴いてくださっているのだなと感じた。

大萱委員長： 先の話になるが、毎年恒例のクリスマスプレゼントも企画しているのか？

会社側： はい。

大萱委員長： 金融機関では、そう簡単にヒッツFMを流す事ができないのか？現在、何か流しているのか？

奥原委員：（奥原委員は金融機関の職員）金融機関独自のものが入ったUSENを流している。

大萱委員長： ヒッツFMを流してもらう事が難しい施設もあるが、何とかいろいろな所と協力して知名度を上げる工夫をして欲しい。ナビゲーターのファンもかなりいるのでは？ナビゲーターのファンを増やすのも良いと思う。その為にもナビゲーターには、スタジオの外に飛び出して欲しいと思う。一方で「見えない神秘性」も必要だと思う。それがラジオのおもしろさだと思う。

原委員： テレビやインターネットなどからの情報がある中で、ヒッツFMを聴いてもらう事は難しいかもしれない。

大萱委員長： この時期、いろいろなイベントが行われるので、そのポスターやチラシに「ヒッツFMの名前を載せてくれるのなら、無料で紹介するよ」というのはどうなのか？

原委員： イベントは小さいものから大きなものまでであると思うが、そのイベントに、必ずヒッツFMの名前を載せてもらうようお願いしたらどうか？

会社側： 一部ではあるが後援依頼がある。当局の会社名「飛騨高山テレ・エフエム」の名前で載せている。

原委員： 「飛騨高山テレ・エフエム」よりも「ヒッツFM」の名前で載せてもらった方がいいのではないか？それに「76.5MHz」を付け加えてもらうとか、このほうが宣伝になるのではないかと思う。お金をかけず、目に触れるところに名前を載せてもらえるよう、行政や各企業に対してお願いをしていくべきだと思う。

大萱委員長： みなさんの中でも協力できることがあればお願いしたい。

安田委員： 例えば、交通安全協会などと連携してチラシを作成する時に、ヒッツFMの名前を載せる代わりに放送で紹介するという事であれば、1回交渉してみるのも良いと思う。



原委員： そのようなお願いなら、たぶん大丈夫だと思う。やはりチラシの中に名前を入れてもらうだけで、目に触れて印象に残るので、あればあるほど違うと思う。「来年20周年になるので、名前載せて下さい」とかでも良いと思う。名前を載せてくれれば、その代わりに番組で紹介するというスタイルは良いと思う。

大萱委員長： 検討して欲しい。他に意見が無ければ、これで閉会する。

会社側： 本日は貴重な意見を頂き感謝している。ますます番組に反映したいと思う。

---

■ 審議機関の答申又は、意見の概要を公表した場合における公表内容、方法年月日

---

9月20日 番組審議委員会の席上で説明

---

■ その他の参考事項

---

次回開催日 平成28年11月下旬

開催場所 飛騨地域地場産業振興センター（予定）